

座 談 会

IT（情報技術）革命と 安全衛生コンサルタント

- 安全衛生情報センターの開設
- すぐに利用できる災害事例
- 今後についての期待
- コンサルタント会のホームページ
- 専門事項の掲載など
- 会員間の情報ネットワーク
- インターネット全般の利用
- 電子メールの便利さ
- ファイル送付の便利さ
- パソコンの広い使い道
- アプリケーションの活用
- これから始める方へのアドバイス
- 年配者への効用
- やさしくなった操作

出席者

常松みどり 労働安全コンサルタント
 皆川 洋二 労働衛生コンサルタント
 大野 博 中央労働災害防止協会安全衛生
 情報センター情報課長 労働衛
 生コンサルタント

（司 会）

毛利 哲夫 労働安全衛生コンサルタント

毛利（司会） 広報委員のひとりとして、また、コンサルタント会のホームページの担当ということで司会を仰せつかりました。よろしくお願いします。

安全衛生コンサルタントにとって、情報技術革命に対応していくことが重要なのは、いまさら申し上げるまでもないと思います。しかし、わが会の会員の方々の関わり方は、会誌の54号に載せたアンケート結果から見ても、関心が極めて高いといえる状況には、ないように思われます。

これまででは、労働安全衛生という分野については、まとまった情報源が整備されていなかったわけですが、今年の1月に中災防に安全衛生情報センターができて、そのホームページからかなりの情報がまとめて提供されるようになりました。そこで、これを機会に、皆さんに一層の関心を持っていただくために、この座談会を行うことになったというわけです。

したがって、あまり高級なことには触れないこととして、ごく基本的なことを中心に話を進めさせていただきたいと思います。

安全衛生情報センターの開設

毛利 まずは中災防の安全衛生情報センターからどういった情報が提供されるようになったかということにつきまして、労働衛生コンサルタントでもある中央労働災害防止協会の大野さんから概略のお話をお願いします。

大野 安全衛生情報センター情報課の大野です、よろしくお願いいたします。

安全衛生情報センターでは、インターネットによる安全衛生情報の提供、バーチャルリアリティー、3D映像での危険災害の疑似体験と、技能講習修了証明書の統合発行システムの運営が主な業務となっています。

きょうの座談会では、IT革命ということですので、安全衛生情報センターのホームページでどういう情報を提供しているかご紹介いたします。

入力している事例が多いので、項目別に説明いたします。はじめに「労働災害事例」ですが、これは死亡災害や重大災害などの事例について発生状況と原因を紹介しており、全部で1130件ほどの事例が入力されております。

2つ目が「ヒヤリ・ハット事例」です。

これは労働災害事例のデータから作成しました。入力されている事例が71件あります。

3つ目は中災防が行っている安全衛生考案というコンクールで、その入賞作品から、「機械設備、作業などの工夫改善事例」という形で情報を入力しております。これが129件あります。

4つ目は「職場の快適化事例」。これは中災防の快適化センターから情報をもらい、50件ほど事例を紹介しております。

5つ目が「化学物質情報」としまして、これは労働安全衛生法に基づいて公表された既存化学物質、これが約4万6000件入力されております。この中で有害性情報がMSDSのような様式で閲覧できるものが約500物質あり、中災防で出している危険有害性便覧の物質も一緒に入力されております。

6つ目が「調査研究情報」といいまして、中災防や安全衛生関連団体の調査研究の要約を紹介しています。これが約150件あります。

7つ目は「労働災害統計」で、これは安全衛生年鑑に載っている昭和63年から平成9年度までの統計です。死亡災害、死傷災害度数率などの統計表が約300入力してあります。

8つ目は「法令情報」です。これは労働安全衛生法、労働安全衛生規則、関連通達、その他の安全衛生についての法令を閲覧できます。

9つ目は「判例情報」というのがありまして、最近公開しました。これは全国労働基準関係団体連合会の労働基準関係判例データベースに対して検索を行うものです。情報は少ないんですけども、現在32件の判例が載っております。

最後に「お知らせコーナー」という項目を作っております。これは行政の動向、新しい改正法令、最近出た通達などを中心にして労働省の発表



毛利 哲 夫 氏

資料、労働省の行事予定を中心に載せております。

また、29の安全衛生関係団体の情報を閲覧できるようになっております。ホームページを持っている団体に対してはリンクできるようにしており、ホームページを持っていない団体には、その団体の設立目的、事業内容及び行事等の予定などを載せております。

なお、「お知らせコーナー」にはトピックスとして、安全衛生関係で最近話題になっていることを入力しているページもあります。

安全衛生情報センターのホームページについて簡単に説明しました。

毛利 どうもありがとうございました。安全衛生情報センターのことは、会誌の54号にも載っていますので、詳しくはもう一度見ていただきたいと思います。今の太田さんのお話のホームページをご覧になったご感想をお願いします。島根県からわざわざ来ていただきました土木でご活躍の常松さんからお願いします。

すぐに利用できる災害事例

常松 見せていただいたホームページで、一番最初に開いたのが災害事例です。そのままコピーして貼り付けることができ、教材に使えるというのがいいですね。

私は、うちで扱った災害を300件余りデータベースに入れて事例として使っているんですが、狭い

地域でやっているものですから、これを公表しちゃうと聞いている人の中に関係者がいたりして、非常に使いにくかったんです。図もかなり鮮明に出てくるし、取込みができるということで、「これは使えるな。自分のデータを使わなくてもよくなったな」という気がしました。

それから法令関係なんですけれども、さっきおっしゃったように、新しいものを次々更新していただいだけ、なおかつ関連法規にリンクができる。私、去年法令のCD-ROMを買ったんですよ。結構高くて、「更新のたびに uitgashinashikayikenai kana」と思っていたのが、必要がなくなったわけです。そのCD-ROMとまったくいっしょの機能を持っていますね。

大野 そうですね。法令情報についてはタイムリーに入力するようにしております。安全衛生情報センターでは、担当者が労働省に月に2回行きまして、新しい改正法令、関連通達等が出ましたら、即座に対応するようにしております。

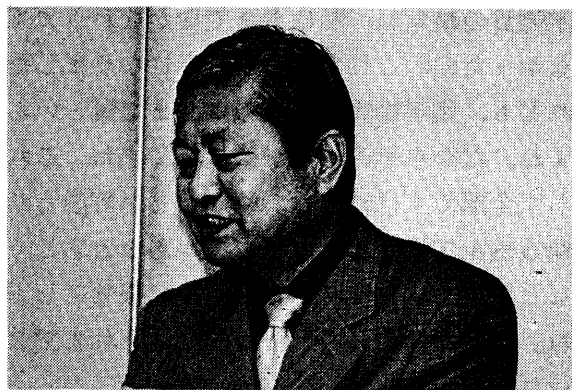
現在、入力を終わっていない法令情報もありますが、安全衛生情報センターでは安全衛生関係の情報をタイムリーに提供することが目的ですので、改正法令、関連通達等については、なるべく早く入力するようにしております。

常松 最新の法令ないしは、通達が更新していただけるというのは、活字でもいいんですけれども、やっぱりこっちのほうが早いというのと、インターネットが使えれば、外出先でも見ることができるというのがいいですね。

それともう1つは、化学物質について情報を探すときに、化学式や名前を入れたら詳しく出ますよね。この3つのページがとても気に入ったなと。まだ全部見たわけじゃないんですけど、「これは仕事に使える」という気がして見させていただきました。

毛利 災害事例の図などをコピーと貼り付けで、教材に取り込んで使えるので便利だということですね。

常松 そうですね、取り込むことができます。この前、わかったばかりですから、実際にはま



大 野 博 氏

だ使っていないんですが、自分の災害事例を使わなくてすむのは、たいへんありがたい気がします。

今後についての期待

毛利 安全のほうでは災害事例がすぐにでも利用できるわけですが、神奈川の保健の大ベテランの皆川さん、衛生については、いかがでしょうか。

皆川 まずはたいへん立派なホームページの開設、ほんとうにおめでとうございます。これからさらに充実していくんでしょうけれど、たいへん素晴らしいものが出来たなというのが感想です。

それで、今、常松さんからもお話がかったように行政面の情報はこれで簡単にみんな手にいれることが出来るということですね。災害事例ももちろんそうですが。

そうですね、ちょっと希望を言っているんですか。いままでも雑誌の法令などの紹介のときに、ただ条文を載せるだけでなく、解説をしてほしいと思っていたのですが、それがちゃんとうまく入っていて、すごくいいと思うんです。その解説の部分を充実して欲しいということです。それも役所用語ではなく。

それにしても行政の動きはもうこれでいい、本を買わなくていいわけで、これはあまり書いちゃいけないかもしれませんが、ほんとうにそういう感じがするんですね。

それから、各論でたいへん申し訳ないんですが。

化学物質の検索ね、私は今までなかなかうまくいかなかったのがこれで出来るようになりました。けれども、化学物質の素人には、まだ難しいんですよね。だからその解説がほしいですね。これに限らず全部ですけども。使い方とか解説とかいわゆるヘルプ機能みたいなものがあるとすごくいいと思います。それはちょっと欲張りでしょうかね。自分で勉強しろと言われればそれまでなんだけれども。

毛利 私も実はそう思っていて、ある程度の知識を持っている人はいいんですが、そうでない人がどう使うのかというところは問題ですね。

皆川 これから充実するんでしょうね。最初から立派なものである必要はない。それをさらにどういう方向で充実していくかという、その辺がたいへん興味があるところですけども。

大野 情報の項目、内容、提供の仕方は、行政との綿密な打ち合わせの結果、現在の形になったものですが、今後はホームページに掲載板のような機能を加え、利用者の意見、要望を取りまとめて、いかに利用者にとって使いやすく、また、利用者にとって有用な情報を提供しなくてはならないと考えております。ホームページを利用する人が情報をくれたり、作り上げていく、というのが理想的なんです。

皆川 災害事例なども今は、役所に届けられた事例ってということなんでしょう。

大野 そうです。

皆川 もちろんそれでいいんだけど、範囲が限定されてくる感じがするんで。今後もっと直接に、現場からどんどんこういう事例があったとかね。そういうユーザー側からダイレクトにいろいろな事例の情報を出してくるというような形が、将来は望ましいんでしょうね。

毛利 そうですね、ユーザーが、「こういった情報は皆さんの役に立つから、皆さんで共有化しよう」ということで、どんどん提供があるということになると、それはすばらしいことです。

皆川 今のところは当然一方通行だけれども、将来は相互の、双方向になっていくことを考える



常松 みどり 氏

べきじゃないかなと思いますけれども。

毛利 しかし、目的に応じて必要な情報をどこで見つけるかというのは、やっぱり、それだけの経験と技量がないと、こなせないですね。

皆川 そう、そういうもんですよね。

毛利 まあ情報というものはもともとそういうものですね。そういうところは、コンサルタントが使い方を教えて上げる世界でしょうね。

皆川 だけど一般の人でもいくらでもアクセスできるというのが、まあいいところですね。情報を専門家だけが独占している時代でなくなったということに意味があるわけだから。

コンサルタント会の ホームページ

毛利 それでは、コンサルタント会のホームページの方に話題を移すことにしましょう。このホームページは、中災防がお使いになったお金と比べて、恐らく桁が三つ違うぐらいしか使っていないわけで、とても比較できるものではありません。

内容は、コンサルタント会の紹介、出版物リスト、会報各号の目次、過去の会報記事の一覧という程度になっています。

せめて、what's new とリンクでは、わずかでも特色を出したい思い、新しい情報を毎月いくつか紹介しています。私と興味の範囲が重なる方は、おもしろいと言ってください。またリンクは、

数を多くすることは避け、重要と思われるものに絞り込んでいます。

ごく最近、皆川さんの分も含めて、20名弱の会員の方々のホームページとリンクをしました。それぞれ持ち主の個性が現れていて、なかなかおもしろいと思います。まだ、ほかにもホームページをお持ちの方がおられましたら、追加するよう申し出ていただきたいと思います。

対応できることは、ごく限られているんですが、ご感想や注文をお願いします。

皆川 コンサルタント会のホームページは、一言でいえば、このリンク集がやっぱりすばらしいですね。僕は何年か前にいたずらで自分のホームページを作った時は、産業保健のあまりいいリンク集がないなと思って作ったんです。もうこれが出来ちゃって僕のは意味がなくなりました。海外のがちゃんとしているというのは、すばらしいね。

常松 私も先日、送られてきてメールから、皆川さんのホームページへすぐにリンクさせていただきましたら、素敵なお写真が写っていて。お目にかかったことがなかったから、どんな方だろうと写真で想像してここへ出席しました。

ホームページから会員のホームページにリンクするというのは、非常にすばらしいなと。ほかの団体でそういうことまでやっているところは、ないんじゃないかという気がしたんですけれども。

毛利 技術士会などではやっていますね。

常松 ああ、そうですか。これは是非、増えていったほしいと思います。

毛利 リンクするのは、労力がかからなくて、担当としては都合がいいやり方です。

専門事項の掲載など

常松 会のホームページなんですけれど。開くと、まず会員向けのページと、それからいわゆる不特定多数の人たちに向けてのページが両方組まれていますよね。会員向けのページについて言いますと、例えばパスワードで入っていけるような



皆 川 洋 二 氏

登録制を採って、会員でこれこれの専門の人を探しているとか、掲示板に書きこめるような格好でプラスして使えるようになったらいいなという気がするんですけども、どうなのでしょう。

毛利 今のところでは、会の定款とか、綱領とか、そういった既存の資料を載せているのと、ほかにリンクして他人のふんどしで情報を提供しているということしかやっていないんですね。

本来は、会としての独自の情報を会員の方々に提供すべきなんですけど、今のところでは、そういう体制になっていないわけです。

どこまで労力をかけるとどの程度のことができるのか、それがどれだけ役に立つのか、そういうことをよく考えながらやっていく必要があります。急いで手を広げてもなかなか続かないんで、無理のない範囲で、慎重に進めたいと思っています。

今、考えているのは、ホームページをお持ちになるのがなかなかたいへんだから、原稿を出していただいた会員のプロフィールを載せるということです。有料にするにしても、金額とサービスの内容をどうするのが適当かということや、運用上のルールを決めなければいけません。その辺、ぼつぼつと考え中というところです。

皆川 情報センターとうまく住み分けをやるというと思いますね。ちょっとその前に情報センターのほうに戻っていいですか。お知らせという、あそこをもっと充実して欲しいんですが。

大野 「お知らせ」の充実ですか、行政情報につ

いては、当分現状の項目で情報を提供していこうと考えていますが、今後トピックスの項目を充実させるか、別の項目を作り、前にも話したのですが、安全衛生情報センターのホームページを利用している人からの意見、要望を集め、それらを反映させたものを作り提供したいと思っています。

とりあえずは、まずあのぐらいの項目でやっていこうということで、これからはまだ、いろいろなことが載ると思うんですけれどもね。

皆川 行政はいいんだけど、行政以来のものがあれば、まあ行政に徹するんならそれでもいいですけれども。動向については、情報センターのほうでやってもらっていいんじゃないかと僕は思うんだけどね。

会員間の情報ネットワーク

皆川 コンサルタント会のホームページ作りは、会員のボランティアでやるといいと思うんですけれどもね、難しいですかね。

毛利 それは会員の方々にご協力いただけるなら、そんなうれしいことはないです。

皆川 それぞれに得意な人たちがいるわけだから。それからさきほどの話題に戻って、仕事はこれからどんどんチームでやるようになると思うので、またそうならなくちゃいけないんじゃないかと思うのですが。それで1人ですべての専門をマスターしているなんていうことはありえないし。逆に専門性を深めなきゃいかんわけですからね。

そうなると、会員相互のネットワークというのはすごく重要になって、それを是非、早くやるべきじゃないかと思うんです。

常松 さっきおっしゃったような会員同士がページに入り込んで、例えば化学物質がとても得意であるとか、木建がとても得意であるとか、そういった分野で自分が困ったときに情報をその人から頂戴する、そういう利用のしかたをさせていただきたい。

毛利 今のお2人のお話ですと、共同して事に

当たるためにどの方が何が得意か、わかるようにする必要がありますということですね。どういう仕組みにするのがよいか、考えさせていただきます。

皆川 まあオープンにするかクローズにするかは別にしてね、コンサルタントの専門をやっぱりわかるようにしたほうがいいと思うんですよ。

その専門という問題、それはそれでたいへん大きな問題なんだけど、まあその専門のカテゴリーをどうするかとかね、そういうこともあるんだが、しかしすごく大事な必要な方向じゃないかと僕は思うんですよ。

常松 会ホームページに書きこみのできる掲示板があったらいいです。

皆川 情報センターのほうは掲示板の管理がたいへんだと思うんだけど、コンサルタント会は、会員に限定することも出来るんだから。これはやっぱり掲示板はあったほうがいいと思うね。

毛利 掲示板というと、会員から来た情報を、ウェブマスターが一応取捨選択した上で載せるというシステムですね。

皆川 このホームページは会員に対するサービスと、一般的なクライアント向けのものと両方をねらっているんでしょうね。会員向けのものとしては掲示板は私はあったほうがいいと思うね。管理は、そんなに難しくないでしょう。でもいたずらするやつはいるでしょうからね、……。

毛利 メーリングリストだといやなものも飛び込んでくるわけですが、掲示板ですと、「せっかくですが、これは受けかねます」と返事をすれば、それで済むわけですから、やりやすそうですね。

皆川 双方向にしたらね。みんなが参加できるというところになるんだから、これはぜひやるべきだと思うね。

インターネット全般の利用

毛利 では、中災防とコンサルタント会のホームページを離れて、全般的なインターネットの使い道についてお願いします。

常松 安全衛生ですか。

毛利 安全衛生についてお願いします。

常松 あんまりないですね。安全関係では。何年か前にクレーン協会の災害事例を使わせていただいたことがあります。それ以外に安全衛生関係で情報をいただいて使ったことはないですね。



毛利 安全ですぐ役に立つものは、あまりないということでしょうか。

常松 ですね。「労働安全」とキーワードを入れてもあまり出てこないですね。

毛利 そうですか。

常松 ほかはもう飛行機の空席情報ぐらいで。

毛利 それは日常生活のほうですね。日常生活のほうはまたきりがなくて、その話のほうははるかに楽しいけれども、ここでは触れないことにしましょう。衛生のほうではどうでしょうか。

皆川 メール以外は情報検索としてあんまり使っていないですね。学会情報の他は。

毛利 でも、皆川さんのリンクには幾つか医学関係のものがあつて。

皆川 薬なんかね。薬とか、いや、もっと使うべきなんだろうけれどもね。本買うぐらいしか使っていないから。私が使いきれていないということです。ときたまでも、それはそれで情報がやっぱり入るじゃないですか。

毛利 そういうものは、やはり情報源として重要なわけですね。

皆川 もっと使う習慣を付けたらいいなというふうに思っていますけれども。

毛利 そうすると、化学物質の情報については、ずいぶん状況が違ふようですね。特に海外の情報ですが、昔はそれこそ手元に新しい情報を持つことにさんざん苦労したんですけれども、今では大変な量の情報が、いつでも楽に手に入るようになりました。例えば、OECDの動きなんていうのは、昔は2年もたつてから、「ああ、そういう情報が

あつたか」というのが、ついこの間の国際会議の報告書が載っていたりで、化学物質についてはだいぶ様子が違ふようですね。

大野 化学物質についてはインターネットで海外の情報を入手しやすいですね、毒性情報なんかも簡単に情報収集できます。

皆川 化学物質以外でもほんとうはもっと使うべきなんでしょう。自分の専門分野の情報をもつてインターネットを使って、新しいところをチェックしていくということはやっぱり必要なんでしょうね。私は英語が障害ですね。

毛利 アメリカの労働安全衛生庁(OSHA)、労働安全衛生研究所(NIOSH)、英国の安全衛生庁(HSE)、ヨーロッパ連合(EU)の安全衛生局、各安全衛生団体などのホームページなど月に1ぺんくらいは、ざっと見るようにしていますが、「ああ、こんなことをやつらやってる。」というふうに、たいへんおもしろいんですが、人によって興味の対象は違ふわけですね。

電子メールの便利さ

毛利 では、電子メールの方の話に移りましょう。これは、電話とも手紙ともまったく違ふたいへん便利な通信手段だとお考えの方が多いと思います。まだ、使っていない方のためにお話をお願いします。

皆川 僕はきょうは「こんな老人でもこうやって使っているんだから、皆さん、もっと使いたう」という呼びかけのつもりで出てきたんですけれども。もう年齢と関係なく、逆に言えば高齢者ほどもっと使うべきだと思っているんですが。

まあやっぱりメールから入っていったらいいんじゃないですかね。メールを使わないで仕事をしようというのは、それはもう無理だと思うな。

僕はある仕事をしたとき、メールで打合せをしたりして、すごく便利だったし、うまく仕事が進むという体験があつて。そのグループの中で海外出張した人がいても、全然問題ないわけですよ。

打合せはもう関係なくできるわけなんです。1か月出張したんですけどね。

それから職場に出掛けていくにしても、事前にもうメールで全部打合せしていくとかね。ファイルを事前にもらっていくとか。だからもうメールを使わない人は仲間に入れない、いっしょに仕事をしたくないということになっちゃうね。だからまずはメールを使いましょうと。

毛利 今回の座談会でもメールがずいぶん役に立ったわけですが、常松さんから、その辺をお願いします。

常松 はい、最初に出席依頼をメールでいただいたときに始まって、メールで返事をする。あと「日時が決まりました」、「メンバーが決まりました」、「内容はこういうふうに進めたい」。それから意見とか感想とか、いろいろ思ったことを会のほうに送ったものがカーボンコピーですぐ回ったり、とにかく情報はすべてメールで共有できたということでした。

実は私、途中でハッと自制したんです。事前に資料を送っていただいたり、ご案内いただいたホームページを見せていただいたりしてたら、つい感想を言いたくなって、メールの下書きしたんですね。送るときになって、「ハッ、これを今送ってしまったては、座談会でお話することがなくなる」と思いまして、慌てて削除したんですけれども。そういうことをやっているうちに、もう座談会する前から座談会が成立してしまったような印象を受けてしまって、一瞬錯覚を起こしてしまいました。

大野 情報センターでは、1人が1台ずつパソコンを持っていることもあり、最近ではメールによるやりとりが多くなってきております。

そんなことから、みんなあまり喋らなくなっちゃって部屋も静かになっております。これは少々大袈裟ですが、中災防の中でもメールでのやり取りが増えてきて、メールをいつも開いていないと情報を見逃すと言ったこともあるようです。

メールでのやり取りについては、それがいいのか悪いのかわかりませんが、メリットのほうが多

いように思います。現状では情報センターの職員は、必ずメールを見ないといけない状況です。

毛利 じゃあ、外から電話があったという伝言なんかもメールで入れておくということですか。

大野 全員ではありませんが、そう言うこともあります。また、メールの便利なところは、多数の人に連絡が一度にできるという点ですね。

常松 メールリングリストですよ。カーボンコピー使ってとかも。

皆川 事前にあんまりやっておくと、座談会にならないという意見があるんですが。僕はそうじゃないと思っているんですよ。やっておけばやっておくほど深まる。

もちろん全然そういうことをしないほうがおもしろいという場合もあるでしょうけれどもね。情報を共有しておいて、それでかつフェイス対フェイスでやるほうがずっと深まるということがあると思うんです。仕事の打合せなんかも僕はそうだと思うんですよ。

大事なところまで行ったら時間切れになるみたいなのが普通よくあるんで、その先に入って行けるわけですからね。だから、ミーティングはやっぱり事前にやっておくほうが、効率もいいし、かつさらに対フェイス対フェイスでやるときも深まりがいいというふうに思う。メールだとあいまいなところをちゃんと確認出来ますからね、言語化しているわけだから、メリットは大だというのが僕の主張だな。それからファイルも送れるしね。



ファイル送付の便利さ

常松 メールの便利なところは添付ファイルですね。メール自体もとても便利なんですけれども、ファイルが添付できるのは、もうこれは仕事をする人間にとっては最高のツールだと思います。

例えばファックスで書類を送ったにしても、受

けたほうは潰れた文字をコピーして使わなければいけないとか、打ち直ししなきゃいけないとか。フロッピーディスクにしても郵便で送らなきゃいけないとか、そういったことがいろいろあるんですけれども、メールだと、もう作った書類をすぐにその場で送れる。向こうもその場で取り出して加工ができる。事務所業務では、連絡は電話のほうが声を聞きながらやったほうがいいものですから、メッセージにはメールはあんまり使わないんですけれども、添付ファイルはよく使います。変換ソフトが手離せません。

毛利 紙にプリントアウトして、封筒に入れて、宛て名を書いて、切手を貼って、郵便局まで持っていくという手間が省け、一瞬のうちに相手に着いているということですから、もう止められない。

皆川 速いとか能率がいいとかというよりも、テキストなんか直せるじゃないですかね。基本的にもう、エチケットとしてそうすべきだと思うんだな、紙で送っちゃいかんよ。

それにクライアント側がどんどん使っているわけだから、やっぱりそれに合わせていかなかったら。

毛利 変な話ですけど、「講演の謝礼を幾らにしましょうか」などというのはメールが便利ですね。

常松 口頭で言いにくいものにはいいですね。ちょっと考えてから答えたいというときにも、メールはいいですね。

皆川 返事してもいいし、しなくてもいいというあたりがいいよね。

大野 メールでやり取りしていると、もうほとんどメールになってしまいます。私のところに入る問い合わせも大抵メールになっています。現在ではほとんど、ファックスを使わなくなりました。

パソコンの広い使い道

毛利 今までお話しいただいた以外でも、パソコンの使い道というのは、限りなく広いわけですが、とにかく基礎的な部分だけでも、対応していないと、コンサルタントをやっているという

こととは、相容れないことになるんでしょうね。

皆川 もう完全にそうですね。だからプレゼンテーションでもパソコンでやらないといけない。お客さまがただで、それが普通になってきているから。

毛利 黒板にチョークで口角泡を飛ばす先生もいいけれど、パワーポイントでカラーのOHPなり、あるいはプロジェクターで、スクリーンに投射して話をしてくださる先生のほうが、今の世の中ではやはりいいでしょうよ。

皆川 プレゼンテーションやろうとすれば、表計算ソフトも要ると、こうなってくるわけですね。

常松 学会とかの報告ですと、映像を使ったほうがわかりやすいかと思いますけれど。いわゆる講演とか、教育の場では、あまり映像を使うとちょっとそこで切れちゃうとか、セットするためにごたごたするとか、そういう時間がなんか間が持たないという感じがあって。

毛利 そういったことには気をつけないといけません、上手に画像を使えるというのは、すばらしいことだと思います。国際会合なんかで向こうの連中のプレゼンテーションは、上手な人が多いですね。立派な画像を使って、うまく見せることをよく工夫をしています。

常松 私なんかの仕事のレベルで言うと、いわゆるツールボックスミーティングのちょっと大型という感じでお話する機会が多いものですから。いわゆる発表という格好ではなくて……。

毛利 現場教育ですね。

常松 そうですね。そういった感じでやるときは、あまり映像を使ってられないような感じはありますね。でもちょっとこれは後ろ向きの話になってしまいましたね。

毛利 まあ、相手とか場所によって、いろいろ使い分けるということは大切ですね。

アプリケーションの活用

毛利 安全衛生のためのアプリケーションとい

うものが、たくさん用意されて、使われることが必要だと思っています。

常松 それはコンサルタントが使うものですか。

毛利 コンサルタントが使ってもいいし、事業場の安全衛生担当者が使ってもいい。海外では安全衛生のソフトがたくさんあるんですね。いろいろな種類のものが揃っている。政府機関のホームページからただでダウンロードできるものもある。例えば、災害報告とその統計を作るソフト、リスクアセスメント用などもあります。

皆川 うん、それはやっぱり知らない人が多いんだから、会誌で紹介してもらったら、それはすごく刺激的になると思うんですね。

常松 日本はソフトらしいソフトはないです。安全関係では市販のソフトなんかありませんでしょう。自分でそれこそデータベースにして作るしかなくて、私なんかテンプレート作ってやっている。自分で作って持っていらっしゃる人って、たぶんいらっしゃると思いますよ。

毛利 かもしれません。フリーソフトとして、そういうものを提供することは、ほかの分野ではあたりまえのことのようですね。

大野 そういうのをちょっと教えてもらえれば、少しこっちも研究します。

これから始める方への アドバイス

毛利 それでは、今のところは手を出していない方々に、この世界に入っていただくために、こんなように取り組んだらいいんじゃないかというお話をお願いします。

皆川 僕なんかしかし、まだ十分使いこなしていないんでね、これはたいへんですよ、老人にとっては。

常松 そうですか。

皆川 やっぱりね、人に聞くしかないんだね。だから、いかにして人に聞か、あるいは教えてくれる人をつかまえるかというのが、最大のポイ

ントだね。

こっさりうまくなろうとしないで、身の回りに絶対に出来る人がいるんだから、そういう人といかにコンタクトして教えてもらうかじゃないかと、僕はそう思っているんですけどもね。どうでしょうかね。

常松 私が最初にパソコンを使い出したときに、人に“うまくなる方法”ということでコツを3つ聞いたんです。「仕事に、毎日、いつでも質問できる人を確保してからやったらすぐうまくなる」って言われまして。仕事に毎日というのはこれは仕事に使うから OK で、いつでも質問できる人というのを周辺で確保するために、事務所に出入りしている営業マンをつかまえて、とにかく聞くということをしたらずまず使えるようになりました。

さっき皆川さんもおっしゃったように、こっさりなんてとんでもない。人に聞かないと。工場で仕事を覚えるとか、それから帳簿をつけるやり方を人から習うとか、そういう方法とは何か全然違う別の回路で修得しなきゃいけないような感じで。それにはやっぱりよく知っている人に、わからなかったらすぐ聞く。

ヘルプ機能もあるんだけど、ヘルプ機能を読んでいてもわからないことがいっぱい書いてありますから、もうひたすら聞くことに。

皆川 ヘルプ機能が使えるようになったら一人前ですよ。

常松 しめたものですけども。

皆川 そこへ行くまでが問題なわけですよ。

大野 聞くのが一番楽でいいですよ。本読んでも解りにくいものが多いです。

毛利 私どもの事務局でもですね、かなりのご年配で最近始めた人がいるんですけど、その息子さんが面倒を見てくれるんだそうですよ。たいへんいいことですね。「今まで親父はそういったものとは別世界だと思っていたけれども、親父も始めたんなら、おれが協力してやる」というんで手伝ってくれるそうです。

年配者への効用

皆川 僕は年取ったのと病気になったということで、何かうちにいながら社会とつながっていきたいということで、「なるほど、これは素晴らしいな」と思ってやっているわけですよ。

それで、もちろん興味と意欲は必要ですね。年寄りにいいんですよ、ほんとうに。

毛利 悪い表現ですがボケ防止にいいですね。

皆川 そうそうそう。

毛利 私もパソコンを始めていなかったら、もうとっくに仕事をやめていたと思いますよ。

皆川 社会とつながりますもんね。仕事にもつながるので、仕事を諦めなくなっているわけだし。

それと今度はもう小学生がもうインターネットでしょう、いよいよ、日本も。そうなったらもうあの人たちは速いから、もうすぐに爆発的にインターネットの時代に、もうすでになっているけれども。まあやっぱりやるしかないんじゃないですか、使ったほうがおもしろいし。

毛利 「いつでも」というのがまた大事なんですよ。

常松 そうですねえ。「仕事に使う」ということでは「反復、継続作業」が非常に楽になるということもあるかと思うんですけども。

それから、「いつも毎日、毎日触りなさい、機械に。開けて毎日触りなさい」と。それがもうとにかくその3つを揃えたらって。

最初、何のことかわからなかったんですけども、今にしてもう絶対そうだと思います。

毛利 やはりある程度の反復が要るんでしょうね。何かバリアのようなものがあって、それはやっぱり時間をかけないと、乗り越えられない。

常松 今までものごとを修得するのに使ってきた手法と、パソコンとかインターネットとかそういう世界を自分が体得、会得する手法とは全然違うという感じですね。

毛利 なんか違う世界なんですね。どう違うんでしょうか。

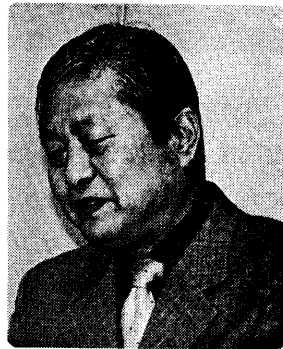
常松 どう違うかちょっとわかりませんが。

皆川 やっぱりある年齢になってやるから、そこはたいへんなんで、やるとすぐ忘れちゃうわけですよ。だから、毎日やっていけば。

毛利 やはり繰り返しやって、体で覚える。

皆川 そう、体で覚えるっていうかね。

大野 私も以前勤務していたバイオアッセイセンターという研究所にいたときは、インターネットを使い、化学物質の情報を毎日のように集めていました。自分のさがしている情報がうまく収集できると、自分だけが情報を持っているんじゃないかと、よく勘違いをして得意がっていました。



しかし、インターネットで様々な情報を見るのは楽しいものです。特にそれが自分の興味を持っている仕事に結びついている情報を収集する作業だと、やっていて時間を忘れることもあります。

また、国際機関などにも簡単にアクセスできるので世界の最新の情報も収集でき、それに伴い英語も勉強しなくてははいけないので、私にとっては一石二鳥でした。

毛利 私にとっても、同じですね。特に化学物質をやる人には、インターネットは面白いのかもしれないですね。(笑い)

大野 楽しいですね。

常松 パソコンやるんなら、最初は何でもいいですよ。私はデジタルカメラから入ったんですけどもね。

デジカメ買いまして、現場を写しては、会議室で、テレビモニターに繋いで使っていたんですよ。

そしたら現場をこう何十か所も写しているうちに、スマートメディアっていう小さな記憶媒体なんですけれど、もう小さいものだからどこへ行ったかすぐわからなくなるし、それから高いし、写したのがどんどん溜まっていきますので、次から

次と買わなきゃいけないて。

人に話したら笑われて、「常松さん、それはパソコンの中に入れといたらいいよ」って、「でも、私、パソコン使えないの」っていうところからパソコンに入ってしまったんですけれども。

デジカメを使ってパトロール記録を保存することから入っていくというのも、これは私の例なんですけれども、いいんじゃないかと思うんですが。

~~~~~

## やさしくなった操作

~~~~~

毛利 機械も随分安くなったし、操作も随分楽になりました。朝日新聞から出たサトウ・サンペイの『パソコンのパの字から』という本をここに持ってきましたけれど、20万部売れたそうです、



こういった類のたいへんやさしいマニュアルも、本屋に行ったら並んでいるし、昔に比べたら随分取り組みやすくなりましたね。

常松 テキストがいくらでも手に入るのと、それと機械の操作が非常に簡単になりました。会誌の54号に内一先生がお書きになっている内容を見ますと、私、ウィンドウズ95が出てからの時代しか知りませんが、以前と比べると随分操作が楽になっているらしいですね。

毛利 昔のことを考えるとずいぶん楽になりました。MS-DOSのコマンドを覚えるなどの必要がなくなっていますから。

常松 キーを押しさえすれば、動きますから。

皆川 情報得るのに本屋に行くでしょう。そうすると、大体本棚をさっと眺める、さっと本を引っ張りだす。そうすると「ああ、これには入っている」と分かりますね。やっぱり本っていうのは情報を探すのには便利じゃないですか。それと同じように探せるかという、何が悪いのか知らんけど、パソコンはだめですね。ちょうど本の表紙し

か見えないようなもんだからね。本はばらばらとめくって「ああ、この中にこんなものがある」って、大体すぐわかっちゃう。この違いが大きいと思うんだけど。それはソフトが、まだ未熟だからということも言えるんだけど。

しかももっと慣れりゃうまくできるんじゃないかなという思いはありますね。

さきほど大野さんがおっしゃった「化学物質に使うのはいい」ということ、僕もそうだと思うんです。実際に必要な情報が現実的に得られると、そうするともちろんうれしいし、役立つという体験が大事なんですよ。それがないと、なんだかあっちへ行ったりこっちへ行ったりしていても、結局、目的物が見つからないとね……。

毛利 それが、常松さんがおっしゃる「仕事に」ということですね。

皆川 だから、化学物質の1つでも2つでもほんとうに役立つとね、その体験はすごくいいと思うんで。是非、使い方を教えてください。いや、ほんとうに。

大野 化学物質情報をインターネットで収集するにはある程度英語ができると便利ですね。僕も英語は苦手なんですけど、今後とも勉強しようという気持ちはあります。

皆川 若い人はいいけれども、僕はもうだめだな。それをどうするかというのは、翻訳ソフトだな。

大野 安全衛生情報センターでは現在翻訳ソフトは使っていません。私が以前勤務していた日本バイオアッセイセンターでは、ソフトの名前は忘れましたが、翻訳ソフトがあって使用したことがあります。単語などはいいいんですが、1行程度の文書でも正確に翻訳されなかったもので、殆ど役に立ちませんでした。特にテクニカルな用語（毒性試験関係）は殆どだめでした。現在はきっと優秀なソフトができていますと思います。

毛利 いろいろ貴重なご発言をありがとうございました。この記事がきっかけとなって、ひとりでも多くの会員の方々が、情報技術革命にフォローされることを期待して、この座談会を終わらせていただきます。